

新聞配布を通して、
皆さんとお茶っこさせてもらって、
あったかい東北の皆さんが好きになって、
神奈川から女川町に移住しました！
これからも皆さんと一緒に、
東北の地で歩んでいきたいです。

きずな新聞 ひで(女川)



不安に揺られながら車で石巻に向かったことは
今でも忘れられない思い出です。
それでも現地で活動できたのは、
声をかけてくれる被災者の皆様の笑顔が
あったからです。優しさを沢山有り難う
ございました！これからもお体に気をつけて
お過ごしくださいね。

足利赤十字病院 あらい

2019年秋、
新聞配りに参加したときに復興住宅の
住民さんから頂いた弁慶草の苗、
去年も今年も綺麗な花が咲きました。
頂くとき丁寧に丁寧に包装してくださり、
その気持ちを忘れずに、大切に大切に
育てています。皆さんの未来にも、
大きな花が咲きますように。

きずな新聞 小川(千葉)

石巻赤十字病院で活動した際、
一緒に行動した地元ボランティアの方々が
忘れられません。
自分が大変な時だからこそ、誰かのために
働こうとする姿は10年経っても
目に焼き付いており、その姿を見て逆に
元気をいただいたことを覚えています。
コロナ禍の折ご自愛下さい。

大分県赤十字血液センター 江藤大輔



集会所でマジックショーをさせていただいた
アップリンの妻です。
夫も私も、早く石巻に行きたくて
ウズウズしています！
コロナが早く治まるといいですね。
作り笑いでも何でも、笑うと心がほぐれて
楽しくなるのだそうです。どうか笑って
免疫力を上げて、お元気でいらしてくださいね。

きずな新聞・大西小百合(愛知)



石巻赤十字病院では、
全国から集まった医師や看護師、
全員の「救いたい」という思いを肌で感じ、
人間のつながりの強さに驚かされました。
苦しい現実がある今だからこそ、
人の繋がりが大切だと感じます。
みんなで乗り切りましょう。

奈良県赤十字血液センター 家治俊行

石巻日赤の産婦人科で
病棟支援活動を行いました。
お産介助をさせていただき、産婦さんが
「この子は私たちの未来への希望です。」
と話されており、その逆境の中での
力強さにこちらが励まされました。
会いたい人にすぐに会えない状況が
続いていますが、共に乗り越えていきましょう。

大津赤十字看護専門学校 S

石巻の湊小学校避難所に設営された
診療所を拠点として活動しました。
帰還する際の「ありがとう」頑張るね。と
声をかけて頂いた時の笑顔は
印象的で鮮明に覚えています。
コロナ禍でみんなが大変な状況だからこそ、
お互いを思いやる姿勢で
助け合っていきます。

福岡赤十字病院 金尾由紀



もう10年になるんですね。
新型コロナのため、
石巻とは1年間ご無沙汰してしまいましたが、
また会いにいきますね。
時間が経っても悲しいお気持ちは
変わらないと思いますが、
少しでも元気出してもらえると嬉しいです。
新聞配りにいったらお話ししましょう。

きずな新聞 佐藤俊一/しゅん(東京都)



私は震災3ヶ月後に薬剤師として
救護活動に参加しました。
石巻赤十字病院を拠点に仮設診療所、
仮設住宅などで巡回診療を行いました。
訪問先の避難所で「カス達による炊き出しに
遭遇し、色々な形で支援の輪が
広がっていると感じました。
そうした輪を今こそ大切にしたいと思います。

浜松赤十字病院 村松英彰



発災の翌日から石巻市で
救護活動を行いました。
今いる場所で本当に力になれるのかと、
葛藤しながら活動しました。
あの日の答えは未だにわかりませんが、
正解があると思うから苦しいのかもしれない
と気づきました。コロナ禍の今、
ご自身の心を大切にしてください。

日赤千葉県支部 青木英憲

避難所では十分なケアや支援ができず、
被災の甚大さを痛感しました。
そんな私に皆さんは
「ありがとう、がんばるからね！」と
声をかけてくださいました。
「私もがんばろう！」と勇気が出たことを
忘れられません。今後も石巻の復興と、
皆様のご多幸をお祈りしています。

日赤医療センター なりた

3月11日24時に熊本を出発し、翌日夕方に
石巻に到着。石巻赤十字病院と
避難所で救護活動を行いました。
どこに行っても「遠くから来てくれてありがとう」
と声を掛けてもらい、
活動に邁進できたこと今も忘れません。
10年が経ちますが復興への道のりを
応援し続けております。

熊本赤十字病院 井野明美



湊小学校で活動しました。
住民の方から
「ここ(石巻)は沖縄と比べて寒いでしょ」
と声をかけていただき、
「実は、初めてステテコを買いました」と答えると
互いに笑顔になったことを覚えています。
これからも震災を風化させることなく
しっかりと伝えていきます。

日赤安謝福祉複合施設 備瀬知貴



10年間、
たくさんの涙と笑顔を皆さんと共有しました。
直接お会いした方、
紙面を通して出会ってくださった方、
すべての出会いに感謝です。
11年目のこれからも、共に歩んでいきたいと思います。
あの日を生き抜き、
そして今日まで生きてくれて、ありがとう。

きずな新聞 岩元暁子/あき(東京/石巻)

